

かけ橋

まだ見ぬ君へ…

災害時に、がれきの下などに埋もれた人を見つけて出す災害救助犬は、阪神・淡路大震災で脚光を浴び、救助活動の切り札として注目を集めています。

富士市内で第一号の

災害救助犬誕生

去る四月に行われた日本災害救助犬協会の認定試験で、見事合格し、富士市内で第一号の災害救助犬として認定されたのは、リバー号です。リバー号は、ゴールデンレトリバー種で雌の二歳。生後二カ月のときに、犬好きの影山茂美さん（今泉）のもとに家族の一員として迎えられました。

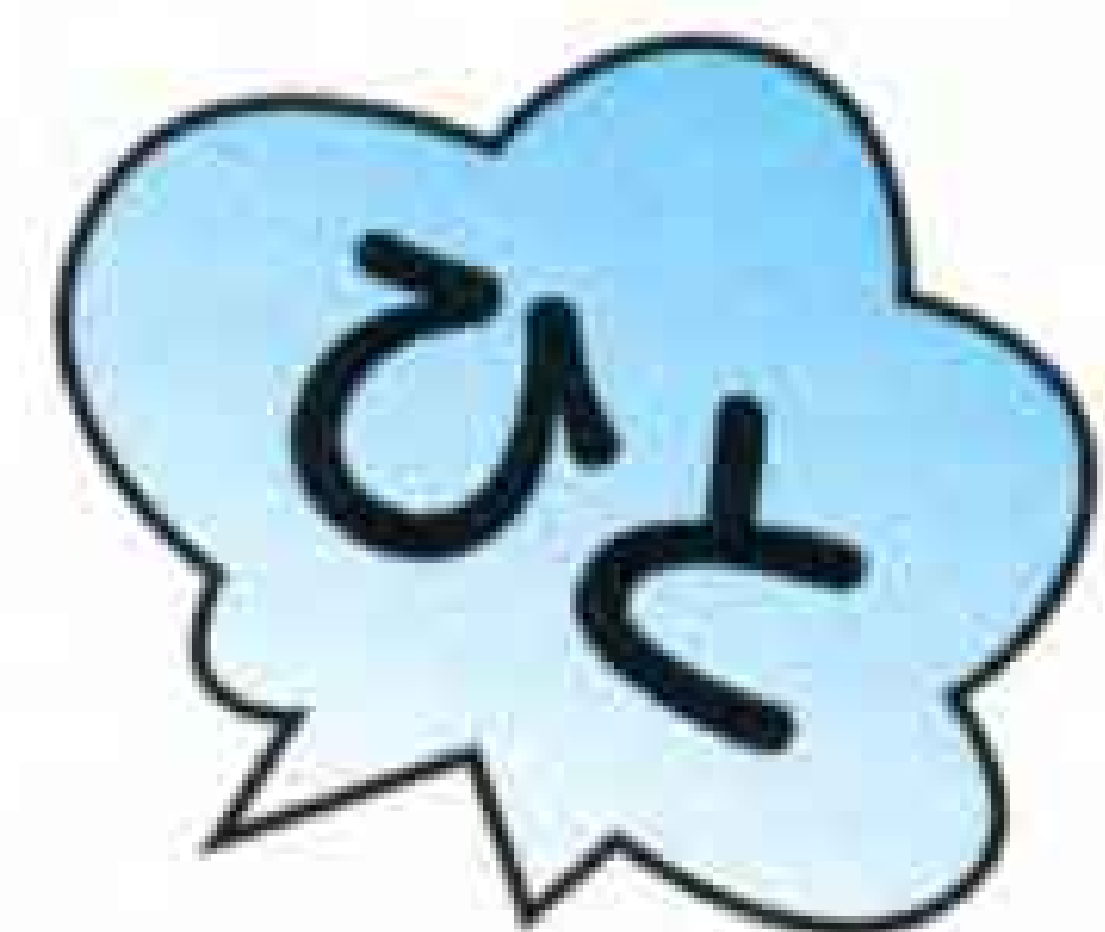
そして、犬のしつけ教室の先生を通して、影山さんが災害救助犬の試験があることを知った

リバー号と飼い主の影山茂美さん。通常の訓練は、指導者の指示通りに動く服従訓練と人のおいをかぎ分ける訓練。そして、週に1回は、御殿場の宮下愛犬訓練所で、本番さながらの訓練を行っています。



ことから、リバー号は今回の試験を受けることになりました。

影山さんは、「私も阪神・淡路大震災のときまで、災害救助犬のことを知りませんでした。でも、東海地震も起きる可能性があるあるし、もし身近で地震などの災害が起きたときに、家族や地域の人たちを助けることができたらと思います、災害救助犬の勉強と訓練を始めました。試験では緊張しましたが、合格できてとてもうれしいです。ただ、逆にプレッシャーを感じるようになってきました。とにかく中途半端な気持ちではできないですね。実際に災害が起きても対応できるように、これからもっと勉強していきたいと思っています。今はまだ災害救助犬が少ないのですが、できるだけ早く救助活動が行えるよう、各地域に災害救助犬がふえるといいですね」と話してくれました。



女性では県内で4人目となる、
剣道の6段を取得した

鈴木 光江さん

(比奈)



神経で、トントン拍子で昇段しました。

「昇段試験では、男女一緒に行うので、気持ちで負けないように心がけました。

剣道は、相手との駆け引きや、ほどよい緊張感があるのがおもしろいですね。剣道をやっていることで生活にメリハリができる。剣道以外のことも頑張れます。それに、剣道を始めて、打ったり打られたりすることで、人の痛みがわかるようになったような気がします。周りの人からも丸くなったねと言われますよ(笑)。これからも、よき指導者でもある夫と一緒に剣道を頑張っていきたいと思っています」

最初のうちは、足さばきで半年かかったというように、基本練習の積み重ね。しかし、バドミントンで全国高校総体ベスト8という戦績を持つ抜群の運動



剣道が生活の一部となっていて、鈴木さんの次の目標は、女性では全国で数人しかいないという、アマチュアでは最高位と言われる七段への挑戦です。